11月2日　「ベトサダの池でのいやし」　聖書研究

テキスト　ヨハネによる福音書5章1～26節

(1) ベトサダの池の周りで

ベトサダの池の周りには病を負い、癒しを求める人々が集まっていたことが語られています。この大勢いる病人たちの中の一人の人物に主イエスは声をかけておられます。主はその全能の力でもって長患いに苦しむ男の苦悩を知り、声をかけられるのです。主イエスは、多くの者の中からたった一人の人を見いだして声をかけておられるのです。その主に見出されて選ばれ、声をかけられる一連の事柄の中には、38年間病に苦しんでいた男の側からの主イエスに対する働きかけは記されていません。このところで苦しみの中にある一人の男が主によって見出され、主の方から一方的に声をかけられるのです。

(2) 38年間病気で苦しんでいる人の苦悩

主が38年もの間病に苦しんできた男に対して声をかけておられますが、その問いは「よくなりたいか」というものです。この問いはいささか奇異な感じを受けるものです。病で苦しむ男は当然いやされたいと願っているのです。

この奇異にも映る問いは病人の状況を明らかにしています。彼は直りたいと願っています。しかし、病のために体が動かず池に入り癒しを得ることができません。誰かに助けてもらわなければ池に入れず、誰かに助けてもらわなければ病は癒されないのです。彼は自分自身の力では癒しを得ることができないのです。誰かに頼るしかなく、その自分の弱さを、いやというほど彼は思い知らされていました。しかし、彼は病から解放されたいと強く願っており、そのときを期待し待ち続けていたのです。彼は未だその思いを遂げることができずにいたのです。

(3) 癒しの奇跡―もう罪を犯してはいけない―

この、誰かに頼る以外に癒される道の無くなったこの男を主イエスは癒されます。その癒しの後主はこの男の前から一度退かれ、再びその神殿の中であわれた時に、「もう、罪を犯してはいけない。さもないともっと悪いことが起こるかもしれない」とおっしゃったことが記されています。

ここにおいて主イエスは病と罪の因果応報的関係を語っているのではありません。むしろこのところで語られる、彼に起こるかもしれない悪いこととは、身体的病の問題ではなく、罪の内にとどまることによる最後的結果なのです。言い換えれば、罪の内にとどまるならば神様の罰を受けることになるということなのです。そこで待っているのは永遠の死なのです。

ここで主イエスは38年もの間病に苦しめられてきた男をその苦しみの中に見出し、病からの癒しを与えられました。しかし、それは単なる癒しのためではなく、彼を死から命へと招くためであったのです。そして、そのために主は彼を見出し、彼に声をかけられたのです。

(4) 安息日論争

最後に、このところで大きな問題となっている安息日論争についてみておきます。ここでユダヤ人指導者たちが最初に非難したのは、主イエスが安息日に癒しの業をしていたからでした。しかし、人間の窮乏に応えることが安息日のすべての活動禁止にも優先するとの教えがラビ文献の中にあるそうです。つまり、指導者たちの非難は妬みのためであったのです。その妬みを持つ指導者たちは、主が御自信を神様と等しい者であるとおっしゃられたことに対して激しく怒りを覚えたのです。そして、妬みと共に神様を冒涜すると思われた発言により、彼らは主イエスを迫害したのです。つまり、これは信仰的動機による論争ではなく、妬みによって引き起こされたものです。（春名義行）

11月2日　「ベトサダの池でのいやし」　説教展開例

テキスト　　ヨハネによる福音書5章1～18節

〔単元のねらい〕

ベドザタの池のほとりに38年間も病気で苦しみ続けていた名もなき男と主イエスとの出会いの物語である。想像を絶する苦しみといわざるを得ない。しかし、彼の苦しみを王なる主イエスはご存知であった。それゆえに、主イエスは、彼の病、孤独の苦しみを制圧される。この物語を通して、子らの悩みも喜びもこの王イエスに知られていること、王の働きが信じる者の上にあることを仰がせ、摂理の信仰を養いたい。安息日の問題はここでは中心としなかったが、王の働きは安息日にこそあることを確認することも大切であろう。なお、『子どもカテキズム』の問27および14を参照のこと。

「声をかけてくださるイエスさま」

皆は、一日中お布団の中にいなければならないとしたらどうですか。もう辛くて辛くてたまらないと思います。もしもあなたが38年間も、ずーっとお布団の中にいなければならなかったとしたら、どうでしょうか。

今、ここに38年間、ベドザタという池のほとりで寝ている人がいます。このベトザタの池は、池の水が動いたとき、一番最初に池に入った人は病気が治ると信じられてきたのです。ですから、病院に行くお金がない人、病院に行っても治してもらえなかった人は、この池にやってきました。まるで大きな病院のように、池の回りにベッドをこしらえて大勢の病人、看取る人たちがいました。皆、そこで何をしているのでしょうか。皆、池の水面を見ているのです。今まで、ニコニコと楽しそうに話していた人も、池の水が動いたと思ったら、先を争って、池に降りて行くのです。よくなりたいからです。心の中では、「今度はわたしの番。」「今度こそ、うちの子どもの番。」このように競争する思いがあったのです。

今、この人には、病気を看取ってくれる人がいません。昔はいたのかもしれません。けれども38年も病気でしたから、お父さんもお母さんももう、死んでしまったのかもしれません。もしかすると、お父さんお母さんはとっくに諦めて、この人を捨ててしまったのかもしれません。とにかく、この人は孤独です。友だちもいません。38年間ずっと、助けてくれる人がいないのです。ずーと、他の人が入るのをただ恨めしそうに見ているしかありませんでした。

「アッ、水面が動いた。今だ！」「ごそ　ごそ、ごそ　ごそ」一生懸命体を動かそうしているその動きを他の人に見つけられてしまいます。そして、すぐに先をこされてしまうのです。もう、いったい何百人に先を越されてしまったことでしょうか。その度に、多くの人たちが、「わぁー、やったぁ、病気が治った。体が楽になった。力が入った。目が見えるようになった。歩けるようになった。わぁー嬉しい。」こんな嬉し涙の声を出したのです。この人はそれを聞くたびに、心が悲しくなり、またいらいらするのです。「ちくしょぉ。俺には、誰も助けてくれる人がいない。」

そんな彼のところに、今日、イエスさまがやってこられました。そして声をかけられます。「よくなりたいか。」どうしてこんなことをおっしゃったのでしょうか。よくなりたいのに決まっていると思います。イエスさまは、この人が38年間どんなに悲しい思いで過ごしてきたのか、知らないのでしょうか。それに対して、この人は、こう答えました。「わたしには、池に入れてくれる人がいません。」不思議なことに、治りたいとすぐに答えませんでした。この人にとって、今、病気であることより、自分が一人ぼっちでいることが辛かったのかもしれません。そして、自分のことを

見捨てて、どんどんよくなって行く人への妬みの気持ちでいっぱいになっていたのかもしれません。

けれども、そんなこの人にイエスさまははっきりとこう命じられます。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」イエスさまは、この人を池に入れてあげられるのではないのです。イエスさまは、直接にこの人の病気を癒すことがおできになるのです。病気を癒されるのは、池の水が動くのを待つことでも、天使が働くのを待つのでもないのです。イエスさまにお願いすれば良いのです。何故なら、イエスさまは、この人のことを心に留めておられるからです。

この人は、こう命じられて、すぐに癒されてしまいました。そして立ち上がることができたのです。この人は、イエスさまにお会いして、病気が癒されただけではなく、自分が独りぼっちではないことが分かったのです。イエスさまは自分のことを見捨ててはおられないと分かったのです。イエスさまは、この人の王様なのです。

真の王様は、僕たち私たちの悩み、苦しみ、悲しみを理解してくださいます。そして、助けてくださいます。悪者から守ってくださいます。だから、心配することはないのです。悲しいこともうれしいことも僕たち私たちに必ず役に立つこととなるのです。ですから、僕たち私たちは、あの人は羨ましい、この人は自分より神さまに祝福されていると妬んだり、心配したりする必要はありません。イエスさまは、毎日毎日、日曜日も月曜日も、僕たち私たちを神さまの子として守ってくださるために働いておられます。だから、どんなときでもこの王様イエスさまに従ってゆくのです。「天のお父さま、イエスさま」と御名を呼べば、神さまが一緒にいてくださることがわかるのです。今週も、お祈りしながら勉強したり、遊んだり、毎日を過ごしましょう。　　（相馬伸郎）

〔今日の暗唱聖句〕　ヨハネによる福音書５章17節

イエスはお答えになった。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。」

11月2日　「ベトサダの池でのいやし」　　幼稚科

〈ねらい〉

絶望から希望へと招いてくださるイエスさまの主権的な恵みを覚える。

〈展開例〉

みんなは風邪を引いたり熱を出したりして寝込んだことがありますか。何日も熱が続くとつらいよね。病気がなかなか治らないということは大変つらいことです。

今日の箇所には38年間も病気で苦しみ続けた人が登場します。この人はベトサイダという池の周りに寝かされていました。この池の水が動いた時に最初に水に入った人は病気が治ると信じられていたからです。でもこの人は、38年も病気で苦しんだ上に、もう身の回りのお世話をしてくれる人もいませんでした。この人はもう希望を失っていました。けれども、イエスさまはこの人に目を注いでくださって、この人の苦しみを知ってくださいました。そしてお声をかけてくださったのです。「良くなりたいか。」これは、希望を失ったこの人を希望へと招くお言葉でした。でもこの人は「誰もわたしを水に入れてくれないのです。水が動いても他の人が先に入ってしまうのです。」と、恨みごとしかいえませんでした。けれどもイエスさまは、そんな希望を失っていたこの病人を、立ち上がらせてくださいました。それは、イエスさまはわたしたちが力を失い、元気を失い、希望を失うような時にも、わたしたちの辛さを知ってくださって、そんなわたしたちに希望を与え、立ち上がらせてくださり、歩き始めることができるようにしてくださるお方だということです。わたしたちはそんなイエスさまがいつもわたしと一緒にいてくださるという、この大きな恵みをいつも覚えましょう。

〈お祈り〉

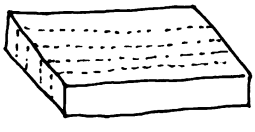
神さま、わたしたちがどんなに苦しくても、悲しくても、そんなわたしたちを助けてくださるイエスさまがいつも一緒にいてくださることを、わたしたちがいつも覚えることができますように。イエスさまのお名前によってお祈りいたします。アーメン。

〈やってみよう〉

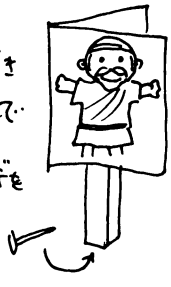
工作をしよう！

浮き人形を作ろう！

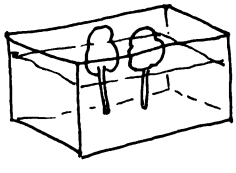
① 発泡スチロールの板を1～1.5cmの幅に切る



② 画用紙を2つ折りにしたものに好きな絵を描き発泡スチロールの先にはさんでのりづけする。
発泡スチロール棒の下にクギをさしておもりにする。



③



水そうに浮かべてあそぼう！

11月2日　「ベトサダ池でのいやし」　　小学科下級

〈ねらい〉

イエス様は、私たち一人一人のことを良く知っておられ、私に何が必要なのかをよくご存知なすばらしい方！

〈展開例〉

礼拝で聞いたお話を思い出しましょう。

○イエス様と長い間病気で苦しんできた人と、どちらが先に声をかけたかな？

・イエス様

※まず、イエス様の方から苦しんでいた病人に声をかけてくださったことを語りましょう。

同じように、私たちもイエス様は「私のところへおいで」と声をかけてくださいます。だから、私たちはこうして日曜学校にきて礼拝ができるのだということを語りましょう。

○イエス様は何て声をかけたかな？

・「良くなりたいか」

※イエス様の質問は分かりきった事を聞いているようですが、イエス様に尋ねられて初めて本当に必要なものが分かるのです。

グリム童話にある、魔法使いに三つの願いしか出来なかったおじいさん・おばあさんのように(「ソーセージがほしい」「ソーセージなんかお前の鼻にくっついてしまえばいい」「ソーセージを鼻から離してください」)、私たちは自分にとっていちばん必要なものが何なのかも、なかなかわからないのです。

〈ちいさなお祈り〉

○イエス様が私を教会へさそってくださったことをよろこんで、「ありがとう」とお祈りしましょう。

〈やってみよう〉

ゲーム「池の水が動いた」

1．長いロープを輪にして地面に置き「池」にする。
2．鬼を一人決めて、他の人たちは鬼と池をはさんで反対側に横一列に並ぶ。
3．鬼が「池の水が動いた！」と言ったら、ほかの人たちは池の方に一歩近づいてとまる。
　鬼が「池の水が動かない！」と言ったら、そのまま動かない。鬼はみんなが動いたかどうかを見ていてチェックする。動いた人は一歩後ろに下がる。
4．いちばん早く池に入った人が勝ち。

11月2日　「ベトサダの池でのいやし」　小学科上級

〈ねらい〉

まず何よりも、38年間病気で苦しんだ男に声をかけられたのはイエス様であること、つまり、どんなに小さな者であっても、イエス様の方から手を差し伸べてくださることを学ぶ。また、イエス様のいやしは肉体のいやしというだけではなく、人をその罪から救ういやしであることにも話しを展開したい。ポイントが分散するので、小学科上級では、安息日論争は省略する。

〈展開例〉

設問を一緒に一つずつ解きながら、上記の「ねらい」の理解を目指す。

○設問

1）以下の文章のカッコを埋めましょう。

（　　）の傍らにベトザタと呼ばれる池がありました。その池のまわりには多くの病気の人や、体の不自由な人が横たわっていました。その池の（　　）が動くとき、池に（　　）に入った人は病気がなおると信じられていたからです。

さて、そこに（　　）年間も病気で苦しんでいる人がいました。そこを通りかかったイエス様はその人に「良くなりたいか」とお尋ねになりました。その人は答えました。「主よ、わたしを池にはこんでくれる人がいないのです。」イエス様はこう答えられました。「起き上がりなさい。（　　）をかついで歩きなさい。」そうするとその人の病気はたちどころになおったのです。

その後、イエス様はいやされたその人に、神殿で再び出会い、こうおっしゃいました。「もう、（　　）してはいけない。もっと悪いことが起こるかもしれない。」

2）この物語で、イエス様と病気の人は、どちらから声をかけたでしょうか。もう一度聖書を読んでみましょう。

3）イエス様はこの人に二つのことを与えてくださいました。それは何と何でしょう。

（　　）と（　　）

4）今日のお話しの中からは、イエス様がどんなお方であることが分かるでしょうか。自由に話しあってみましょう。

○設問の説明

1）説教で語られたストーリーの復習です。分からない部分（特にイエス様の言葉）については、聖書の当該箇所を示してあげましょう。

2）この部分をもう一度考えることで、今日の第一のポイントである、イエス様が自ら悩み苦しむ者に目を留めて手を差し伸べられる方であることに注意を喚起しましょう。

3）答えはもちろん「病気がなおること」と「罪の赦し」で、今日の第二のポイントです。後者については、神殿でいやされた人と再会したイエス様の言葉の意味を考えることによって説明しましょう。

4）二つのポイントのおさらいです。二つのポイントを盛り込んだイエス様の姿にいたることが目的です。

11月2日　「ベトサダの池でのいやし」　　中学科

ねらい

○主イエスは私たちの悩みを見て、御自分から助けの手を差し伸べてくださるお方である。神の摂理のすばらしい側面である。

展開例

○主イエスによる病気のいやしは、罪の赦しをもたらす主イエスの救いの、目に見えるしるしと考えられる。現代では、罪赦されることが、肉体のいやしに直接結びついてはいない。肉体的ないやしは、復活の希望の内に待望される。

話し合ってみよう！

○病人のいやしなどの善きわざを、主イエスは安息日に行っておられる。安息日には働くことが禁止されていたが、これはどう考えられるのだろうか。

祈り

安息日は、私たちのために備えられた恵みであることを理解させてください。

○暗唱聖句○

ヨハネ福音書5：17

○祈りの課題○

聖書日課

日	ヨハネ福音書	5章1～9節
月	ヨハネ福音書	5章10～18節
火	マタイ福音書	12章9～14節
水	ルカ福音書	17章11～19節
木	マルコ福音書	2章1～12節
金	マルコ福音書	2章23～28節
土	マルコ福音書	3章1～6節

☆ミニ日記☆